

支援便り

令和5年11月発行 第5号
串木野特別支援学校 支援部

巡回相談では、事前に伺っていた対象の子供たち以外にも気になる子供たちを時々見掛けます。その子供たちは先生方から気付いてもらっているのだろうか、困っていることを先生にうまく伝えられているだろうかと心配になります。今号は、そのような子供たちからの発信に気付いて支援するためにはどうしたらよいか考えてみましょう。

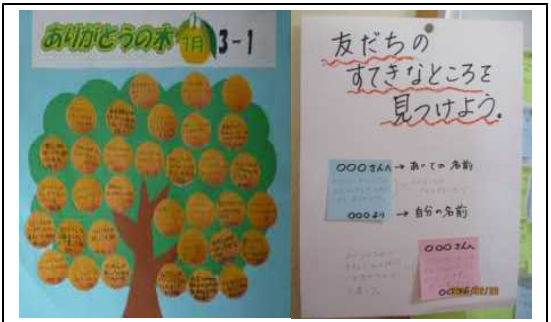
☆ 困ったときに「助けてー」と言える教室に！

安心・安全で一人一人の違いを認め合えるような学級づくりを目指しましょう。

- (指導・支援例)・ 仲間意識を育成するための場づくりや言葉掛けを行う。
- ・ それぞれの長所や個性を認め合える活動や掲示を行う。
- ・ 人権の視点を大切にした言動（挨拶・言葉・対応）を心掛ける。



絵本「教室はまちがうところだ」 蒔田晋治 著



掲示「ありがとうの木」「いいところみつけ」

☆ どういう支援が必要なのかは子供自身に聞いてみよう！

今年度の県特別支援学校支援部会で、県教育庁特別支援教育課の福元指導主事から以前勤務されていた始良市教育委員会で作成した「得意なこと、苦手なことシート」の紹介がありました。このシートは子供自身が27項目について得意・苦手さを5段階でチェックし、それを基に担任と面談しながら一緒に支援策を検討していくというものです。(始良市教委HPよりダウンロード可) 実施後、子供たちから以下のような声が聞かれたようです。

先生が自分のためにいろいろ考えてくれた。
自分の意見を聞いてくれた。
先生に相談していいんだと思えた。



先生方に求められていることは
子供のことを分かってもらうこと。
子供と一緒に考えること。

※ 子供の気持ちに共感し、得意なことは伸ばし、困っていることや苦手なことは少しでも減らしていけるように一緒に考え支援していきたいものです。

また、「発達障害の本人調査からみた学校不適応の実態と求める理解・支援に関する研究」(高橋・生方, 2008)によると、調査対象の子供たちから「学校でこんな支援をしてほしい」と一番にあげたことが「一度に二つのことを並行してできないため、教師の指示に従えなかったり作業ができなかったりするの、そのことを理解して課題や指示を工夫してほしい」ということだったそうです。全体の48.1%もの子供たちの声です。

例えばこんな場面
・ 板書 (先生の話を聞きながら書く。)
・ ドリブル (ボールをつきながら走る。)
・ 演奏 (楽譜を見ながら弾く。) など



その思いや願いを受けて、
同時に複数の指示は出さない (指示は一つずつ)。

※ 「やればできる」、「やれて当たり前」という考えが、実は子供たちを追い込んでいるのかもしれない。

例えば、聞く時間と書く時間を分ける。
「話をするので今は鉛筆を置きなさい。
後で書く時間をとります。」